

スポーツ振興について (1)

国スポ・障スポ大会を契機とするスポーツを通じたからだところの健康づくりと地域の活性化

国スポ・障スポ大会の開催に向けた環境整備や各種競技の盛り上げを通じた機運醸成の加速化とともに、両大会のレガシーによるスポーツ振興等に取り組むことで、「からだところの健康の実現」と「地域の活性化」を進めていく。

【第3期滋賀県スポーツ推進計画における目標】

■スポーツを「する」(週1日以上運動・スポーツ実施率)

指標		R 1 実績	R 5 実績	R 9 (目標年度)
全 体	滋賀県	合計 44.1% 男性 45.6% 女性 42.4%	合計 52.1% 男性 54.9% 女性 49.3%	70%以上
	全 国	53.6%	52.0%	70% (R 8)
障害者	滋賀県	28.9% (R2) 38.1% (H29)	38.4%(R4)	50%以上
	全 国	25.3%	32.5%	40% (R 8)

■スポーツを「みる」

指標	R 1 実績	R 5 実績	R 9 (目標年度)
滋賀県を本拠地とするプロスポーツ等のホームゲーム観客数	73,262 人	120,900 人	12万人以上※
スポーツを観戦した県民の割合 (テレビ観戦などは除く)	21.5%(R 4) 調査はR 4～	21.9%	40%

※R 5実績を踏まえ、R 9に14万人以上を目標に取組を進めていく。

■スポーツを「支える」

指標	R 1 実績	R 5 実績	R 9 (目標年度)
スポーツボランティア参加者数 (本県ボランティア登録システム利用)	719 人	1,300 人	3,800 人以上

1 国スポ・障スポ大会の開催に向けた環境整備

(1) 県立スポーツ施設等の整備・活用

主会場となる平和堂HATOスタジアム、平和堂げんきっこフィールド、滋賀ダイハツアリーナなど、両大会の会場となる施設の供用を始めている。今後は、草津市立プールの供用を開始するとともに、彦根総合スポーツ公園のエントランス広場や東側駐車場の整備に加え、バリアフリー対策などを進めていく。

(2) スポーツボランティアの普及

プロチーム、関係団体、行政等で構成する「しがスポーツボランティア協議会」への補助を実施。ボランティア募集、育成、活動機会の充実等を通じて、スポーツボランティア文化の定着を図っていく。

2 各種競技の盛り上げなどによる機運醸成

(1) 県内各地でのスポーツイベントの開催

県民スポーツ大会や障害者スポーツ大会、びわ湖マラソンなど、県内各地で各種大会を開催し、県民がスポーツに関わる機会を提供していく。

(2) 障害者スポーツの展開

ボッチャやフライングディスクなどの各種競技の体験イベントや総合型地域スポーツクラブでの障害者スポーツ教室の開催とともに、障スポ大会にかかる選手派遣・養成などを進めていく。

(3) 県内各地でのプロスポーツ等の盛り上げ

本県を代表するプロスポーツ等6チーム（滋賀レイクス、レイラック滋賀FC、東レアローズ、ブルースティックス滋賀、日本精工ブレイブベアーズ、東近江バイオレッツ）を軸に各種競技の盛り上げを図るため、情報発信や大会招致、チーム等と連携したイベントの開催などに取り組んでいく。

3 レガシーの創出・地域活性化

(1) シンボルスポーツの充実・創出

両大会からのシンボルスポーツの創出や56国体のレガシーから生じた競技の強化に向けて、競技団体と地元市町で構成する実行委員会が実施する各種取組を支援していく。

(2) スポーツを活用した地域活性化

県内スポーツ施設を核にトップアスリートや指導者が世界的に活躍することを通じた地域の活性化に向けて、その拠点づくりを進める活動に対する支援を行っていく。

(3) 中学校部活動地域移行に向けた指導者確保・受け皿の整備

令和8年度からの本格実施に向けて、指導者資格取得支援や大学生コーチの確保・養成、「滋賀コーチバンクシステム」の運営など、指導者確保に向けた取組とともに、関係者で構成する検討会議での議論などを通じて、受け皿団体の整備を促進していく。

(4) 新たな取組へのチャレンジ

eスポーツやアーバンスポーツ等の新しいスポーツの推進に向けた可能性や課題解決法の調査・検討とともに、両大会後の持続可能な県立スポーツ施設運営に向けた新たな取組の検討・実施のほか、スポーツイベント等での大学・企業連携を進めていく。